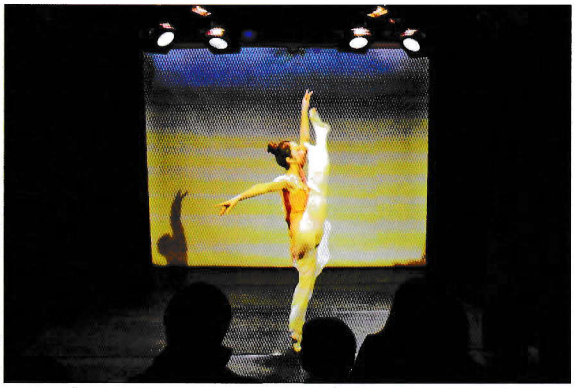
『旅立ちの季節のダンスプロジェクト』

八戸東高等学校 教諭・櫻庭倫子



第６回ダンスプロジェクト

去る３月21日、スペースベンで第６回ダンスプロジェクトが行われた。八戸東高校に赴任して３年、主催者である昆賀子先生と共に表現科のダンスの授業を担当しているご縁から、今回アドバイザーという形で、ダンスプロジェクトに参加させていただいた。

初めて足を踏み入れたスペースベンは、観客席とほとんど境のない小さな舞台。その上で自身の作品を繰り返し練習するダンサーたち。その周囲では忙しく開演の準備を進めるスタッフたち。外の強風と寒さを吹き飛ばすような、情熱とエネルギーで溢れていた。

このダンスプロジェクトは、「自ら進んで挑戦する意志と行動に新たな発見がある」をテーマに、ダンサー・裏方を募っている。そして、観客からの声を糧に、学ぶ力を深め次へのステップに繋げていこうという、画期的な企画。まさに、出演者・スタッフ・観客が三位一体の舞台。出演者は、初めて挑戦する小学生、小さい頃から舞踊を習っている中学生、将来、表現活動を志す高校生、そして舞踊家と、年齢もキャリアも幅が広い。また、スタッフは八戸東高校表現科や演劇部の生徒たちが集まり、プロの方々からの指導を受け、舞台を作りあげていく。出演者も裏方も自ら参加費を払う。これは価値ある自分への投資であると考える。毎年、出演者もスタッフも違い、作品も違う。しかし、共通していることは、「踊ることが好き、舞台が好き」という純粋な気持ちが集結し、ダンプロの舞台を通じて目には見えない確かな足跡を残している、ということではないだろうか。

開演と同時に、過去５回の歴史をたどる映像がスタート。映画の予告を感じさせる粋な演出。観客の中には、過去の出演者やスタッフもいる。初めて見に来た者もいる。「今年はどんな作品が登場するのだろう」・・・映像と同時に様々な思いが交錯し、観客の期待と興奮をより一層高揚させた。

ダンサーの身体は、自身のメッセージを奏でるように、しなやかにそして力強く躍動していた。観客の視線が突き刺さるようなスペースベンの舞台は、かなりの緊張感に違いない。その舞で踊る勇気に、観客からの直球の評価が送られる。舞台を終えて、観客からの声に耳を傾け、アンケートを読むダンサーたちは、真剣そのもの。今後の活動の大きな糧となり、ますます磨きのかかったダンスを見せてくれるものと確信している。

スタッフもまた、この舞台のために数多くの打ち合わせを重ね、舞台の成功を支えた。成功だけでなく、失敗も貴重な経験になったであろう。ぜひ、今後の表現活動にいかしてほしい。

最後に、私が表現科に関わり、生徒と学んだ中で、印象に残っている言葉を紹介したい。「表現とは他者に対する『問いかけ』である。表現者の内部から他者に伝えたい何かが出て、他者に届き、その他者に何かの変化があるときに成立する。自分勝手であるところに表現はない。」・・・ダンプロが終わった後、出演者・スタッフ・観客からたくさんの「ありがとう」という感謝の言葉が満ちあふれていた。それぞれの「問いかけ」が、互いの心に届き、大きな感動が生まれた、心あたたまる舞台であったことの証である。新たな自分、新たな発見に出会えるダンプロ。春、旅立ちの季節に、ぴったりの企画。来年は、更にたくさんの方々の参加を期待している。

Friday Amusement Negative Shop　FANS(847~851回)(だべり場 2010.05) 5/7,14,21,28日 19:30開始　5/1,8,15,22,29日 14:00開始 入場無料

演劇空間 スペースベン
八戸市柏崎1−11−8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350
☎ 080-6025-0990
HP http://spaceben.com/　Eメール owner@spaceben.com
※特別番組以外全て午後7時30分~、料金/一般400円　高校生以下100円（当日100円増）
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

５月号好評発売中！
●今月のテーマエッセイ　土に親しむ
まちの花屋さん……三浦由起子
芭蕉……佐久間寛
一年生……浜橋愉子
彬啓塾……内海隆
シルバーおばさん……前田敏子
古代人と農業……正部家種康

●今月のインタビュー
シニアの情報誌「しるばにあっぷる」編集長
山本光一（やまもとこういち）さん(60歳)に聞く
読む楽しさ 読物満載
毎月ご愛読ありがとうございます
発行所／うみねこ出版社
八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
TEL·FAX 0178-44-6636